

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原一丁目2番4号
自己評価作成日	令和2年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和2年9月3日	評価結果確定日	令和2年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. アットホームな雰囲気、スタッフは入居者や御家族と信頼関係を築ける様心掛けています。 2. 医療との連携を図り入居者様とその御家族の意思を尊重し、最期まで支援して行きます。 3. 今年は特にコロナ感染にて面会禁止と三密を守り安全に過ごせるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺には、花畑小学校、花畑交番、農産物市場などがある。西鉄バスの営業所も近く、交通の便がよい場所に立地しているため、遠方に住む家族も訪れやすい環境である。道路を挟んだ向かいには、高齢者の相談場所である地域包括支援センターが設置されており、日頃から積極的に交流して、相談しやすい関係性を築いている。また、利用者が希望する医療や介護サービスを安心して受けられるように母体病院、法人内の複数施設と協力、連携体制を整えている。新型コロナウイルス感染症の対策も十分に実施されており、職員と利用者が穏やかに日常を過ごせるように細部まで配慮を欠かさない事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意義をスタッフ間で毎日確認・共有を図り、実践に繋げている。	開設2年後に当時勤務していた職員で「地域との交流を図り安心して生活できる環境作り」という理念を考え、日々の支援につなげている。特に利用者が安心して過ごせるように言葉使いや声のかけ方には気を配っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は秋祭りや餅つき、鏡開きなど地域との交流が出来ていたが、今年はコロナ感染にて面会禁止中の為交流が出来ていない状況である。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり今年では全ての地域行事が中止となっているが、いつもは地域の一員として地域行事には積極的に参加したり、スーパーでの買い物の際に地域の方と挨拶や話をしたりして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を実施しており、ミーティングで内容をスタッフ間で共有している。また、支援方法を実践して理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービス内容や状況の報告、テーマを持って意見交換を行っている。今年ではコロナ感染にて2回中止している。	会議では事業所の運営状況についての意見交換、熱中症などの身近な話題に関するミニ勉強会を行っている。今年では開催中止となる回もあつたり、短時間での実施となつたりした。欠席者には電話で意見を求めるなど、工夫をしながらサービス向上のための意見収集に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回運営推進会議に参加して頂き、施設の現状報告を行っている。また、包括からは地域の情報を受けている。今年ではコロナ感染で2回中止しているため電話で報告し情報を受けている。	行政担当者とは相談しやすい関係を築けている。事業所の前にある地域包括支援センターとも日頃から交流を図り、ケアサービスへの取り組みを積極的に伝えて協力体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束はしていないが、建物の構造上やむをえないので施錠をしている。家族には入所時に説明と同意を得ている。2か月に1回ミーティング時に身体拘束についての話し合いをして必要時取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し年3回、身体拘束ゼロへの手引きを元に勉強会を行っている。言葉による「ロックをしない・かけない事」を職員全員が認識、理解している。また、物理的拘束も含めて、職員間でも注意深く観察し、注意しながら日々の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し、より知識を高め虐待防止に注意を払っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度の研修会に参加し認識している。問い合わせ等ある時にはパンフレットを活用し説明することができる。	内部、外部研修会に参加するなど学ぶ機会を設けている。パンフレットを常備し、状況を事前に聞き取り、些細な疑問にも対応するなど、親身な対応を心掛けている。実際、家族からの相談で、制度活用へ繋げたこともある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に見学や体験等を行っている。入居希望の方、そのご家族の方に不安等あれば説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で日頃よりコミュニケーションを図り意見や要望の交換会を行いその都度取り入れる様努めている。	事業所訪問時や家族会の時などに、意見や要望を聞き取っている。家族より、毎月のメニュー表を送って欲しいという意見が出たため、請求書と一緒にメニュー表や写真を送るなど、意見の反映につなげている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中や月一回のミーティングで意見、相談があれば聞き、その都度対応している。現在コロナ感染にて主任会が出来ていないので必要時のみ行っている。	ミーティングの中で職員の意見や相談などを聞き、速やかに実現出来るよう取り組んでいる。また、日常の業務の中で意見が述べやすい雰囲気作りを心掛けているため、職員も相談しやすく働きやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年は職員それぞれがスキルアップを目指し研修会、勉強会への参加をすすめ、やりがいのある働きやすい環境作りに努めていたが、今年はコロナ感染にて研修がないので施設内の勉強会でスキルアップをしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	新規職員に限らず全職員に対しても年齢、性別で排除しないようにしている。研修会参加や自己実現のための資格取得の際、勤務調整を行うなど配慮している。	採用にあたっては、年齢や性別、資格の有無などの制限はなく、人柄を優先している。採用後はキャリアアップに向けて、資格取得時の勤務調整を行ったり、職員の趣味である手品を披露する場を作ったりして、職員が生き生きと働きやすい環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外での尊厳に関する勉強会や研修に参加し、入居者様への尊厳、人権そしてプライバシーについて検討する機会を設けている。	人権教育や自己啓発を目的とした外部研修に参加し、内部で伝達講習を行って全職員で理解を深めている。利用者が不安やストレスに感じる言葉使い、態度などに十分に注意し、安心して過ごせるよう心掛けている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修がある分に関しては3密に注意し参加させ、ない分に関しては施設内で勉強会をしてスタッフの能力向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年に行っていたが今年はコロナ感染で話し合う場を設けることが出来ず現時点では出来ていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や相談、要望があれば耳を傾け心身ともに安心した生活が出来るように支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いや不安な気持ちに寄り添い話しやすい環境作りを心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、御家族様の現状を把握し、他職種と連携をはかり必要とされている支援を提供出来るよう努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や他入居者様との会話等生活の中で出来る限り共同で作業を行い、暮らしを共にする者同士関係を築き安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は緊急事態宣言にて面会を禁止していたが、7月より玄関にて5～10分の面会を再開しその時に近況報告を行っている。遠方の方には電話にて行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響にて御家族以外の面会が出来ないので電話での対応を行っている。	感染症対策として、事業所への訪問制限を実施しているため、直接会うような交流は難しい状況になっている。月に1回の病院受診時に馴染みの場所を通り、車の中から見ていただくなど、対応できる範囲での工夫をしている。	テレビ電話などを活用し、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、時間の制限なく家族や馴染みの方との交流が図れるように今後の工夫に期待したい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを密にならないようにテーブルの位置を変えレク時にも対応し、入居者が笑顔で過ごせるように声掛け、見守りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再入居の相談や関連施設への入居等は面会に行かせて頂いたりし対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り意向に添えるように日頃から希望や意見を聞くようにしご本人が自分らしく生活できるようにしている。	思いや意向を話しづらい時には居室に誘導し、ゆっくり、落ち着いて話を聞く環境を作るなど、細かい部分にも配慮している。意思疎通が困難な場合には、家族から聞き取りを行ったり、表情や仕草から思いに近づく努力をして意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント作成、これまでのサービス利用時の情報収集を行っている。入居者様や御家族との会話の中で聞き取りも行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の体調を第一に考え、現状維持、健康管理が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ感染の為電話や面会時に御本人、ご家族の意向を聞いてスタッフ間でカンファレンスを行い課題設定や目標を立てている。	介護計画作成時には利用者、家族、看護師、担当介護職員、ケアマネージャーで情報を共有している。定期的にモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればその場のスタッフで話し合い記録、共有し、再度ミーティングで検討し実践、計画等に反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況に対応できるように職員、ご家族と連携を図りながら柔軟な支援が行えるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会、民生委員、地域包括支援センターの方に参加して頂いているが、コロナウイルスの影響のため開催回数が少なくなっている。その時はお手紙もしくは電話で状況の報告を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様はかかりつけ医が協力病院のため緊急時の受診、受診に行けない時は必要に応じ往診をして頂いている。	利用者が希望する医療機関を受診できるよう、支援体制は十分に整っている。複数の医療機関を受診する利用者に対しては、かかりつけ医の受診時や電話連絡にて結果を報告し、情報共有を図って適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護職員への報告や相談が出来ており、小さな変化や気づきに適切な看護や医療の提供が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院との連携を図り入退院時の情報交換を行っている。また入院中も本人様の様子や身体状況の把握、退院時期の相談など電話や訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、御家族、本人、スタッフを交えた話し合いを十分に行い、看取りを含めた今後の方針をスタッフ間で共有している。	終末期の意向については入居時や急変時など状況変化時に説明し、利用者や家族の意向を確認して、関係者と情報共有している。これまでに終末期ケア、看取り介護を行ったことがあり、その経験を活かして、利用者や家族に寄り添った支援を実践している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回急変時に備えたAED研修会、心肺蘇生の訓練や勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回施設において消防訓練、災害時訓練、年3回の勉強会を行い非常時に落ち着いて、速やかに安全に避難誘導出来るようにしている。	年3回火災、地震、風水害とテーマを決め勉強会を実施している。訓練時には地域の方にも声を掛け、協力を仰いでいる。避難後も利用者が安心して過ごせるように、防災カードを作成し、地域の方にも利用者の状態が分かるよう工夫している。	職員は避難場所について勉強会などで理解はしているが、誰がいつ見ても確認することができるハザードマップを掲示するなど、災害発生時に迅速・的確に避難できるよう更なる体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言動を否定しないように、安心して頂ける言葉かけや対応を心掛けている。	利用者の言動に対し否定的な対応をしない、利用者に合わせて言葉使い、安心できる声掛けを心掛けている。どんな些細な要望でも出来る限り答え、難しい場合には必ず理由を説明するなど、利用者一人ひとりの人格を尊重している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望の表出、自己決定が出来ない利用者様が多く、日々の表情変化を察知し、見落とさないように注意し、支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切に、業務優先にならないよう注意し、柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月に一度の訪問理容や、年に2回訪問美容教室を利用しているが、今年はコロナ感染の為、訪問理容は、緊急事態宣言解除後再開し、訪問美容は訪問人数が多い為、現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとり入居者に合った食事形態を提供している。台拭きなど出来ることを一緒にやっている。	裏庭で採れた野菜や家族から差し入れされた食材を献立に取り入れたり、パンケーキやプリンなどのデザートを利用者と職員と一緒に作ったりして、楽しみながら食事ができる環境作りに励んでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活パターンシートに食事量、水分量を記入し把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り自分でして頂くよう声掛け支援し、不十分な所はスタッフが行っている。定期的に歯科往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えのない方には声掛けを行いトイレ誘導を行っている。オムツ交換の方は定期的に交換し清潔保持に努めている。	訴えを表に出さない利用者もいるため、排泄パターン表を確認しながら声をかけ、排泄の自立にむけた支援を行っている。他施設からの情報提供を受け、夜間用の長時間パットを使用することで睡眠を妨げることがなくなり、精神状態が安定した事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を把握し水分補給にも努めている。運動への働きかけや必要によっては薬剤でのコントロール及び腹部マッサージで対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく一人ひとりの希望に添えるようにしている。入浴が楽しめるように季節の入浴剤を使用したりして対応している。	週2回、午前中を基本としているが、個々の希望やその日の状況に合わせて時間帯や日付を変更するなど、配慮している。洗身石鹸は、皮膚に優しいボディソープを使用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や心身の状態に応じて気持ち良く眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服薬している薬の目的・効果、用量について把握している。受診時状況を報告しその時の状態にあわせ用量や内服の変更がある時、その都度スタッフにも伝達し服薬支援をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ感染対策で三密に注意し役割が難しくなっているので、毎日1時間程度、席等の配慮して、レクリエーションに参加して頂き、楽しく過ごせるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中に外出支援を計画しているが、今年はコロナ感染にて、高齢になるので近くの裏庭に行き季節を感じられるよう支援している。	感染症対策として、遠方への外出や密になる所へは行けていないが、事業所の周辺を散歩したり、裏庭に出て気分転換を図るなど、工夫をしている。通院時の車窓から景色を眺めたり、テレビの映像などから少しでも外の雰囲気を感じられるように気を配っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が酷く、買い物や金銭管理を出来る方がなく、御本人の希望でお金をもたせてはいるが、現在はコロナ感染のため外出できないので、ホームで管理をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染にて面会禁止のため、遠方の方には、御家族の様子が気になる時は電話で話して頂いたり、お便りで伝えたり安心できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着いて生活出来るよう、音の大きさや明るさや空調、障害物に配慮している。毎月、季節に合った掲示物を飾るよう工夫している。	共有空間には行事の写真や利用者の作品、季節を感じられる作品などが飾られ、全体は暖色で統一されており、落ち着いて過ごせる空間となっている。2時間置きに室内換気を行い、対面や密とならないようテーブル位置も配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ感染対策で入居者様同士、三密に注意しながら席の工夫をし、話しやすい様配慮している。独りで過ごしたい時は場所の提供や居室内への案内を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで家庭で使っていたタンス・ソファ・椅子・仏壇等馴染みのある物を置いて、居心地良く過ごせるよう環境作りをしてる。	居室には愛用していたソファや仏壇などがあり、壁には習字の作品や写真が飾られ、個々の好みに沿った居室作りがされている。居室内の清掃にも気を配り、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりなどを設置、自立した生活を送れるような工夫をしている。居室内も安全に移動できるよう、また防災にも気を配り環境整備をしている。		